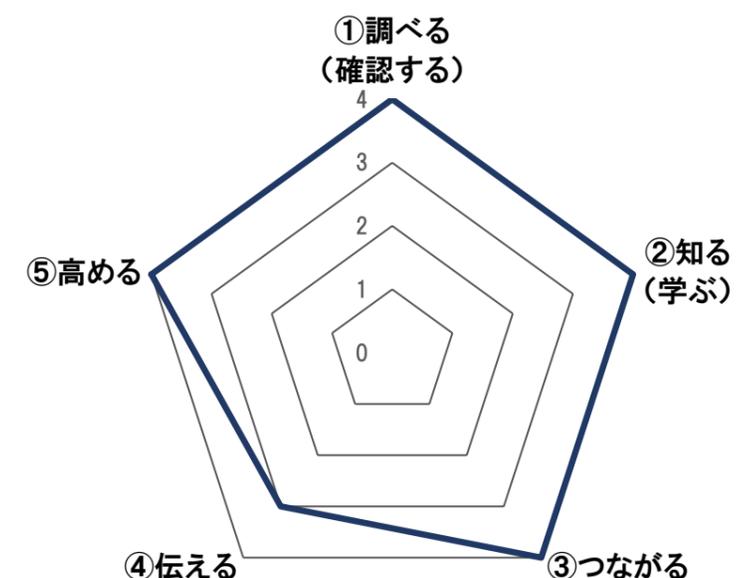


若草小学校区

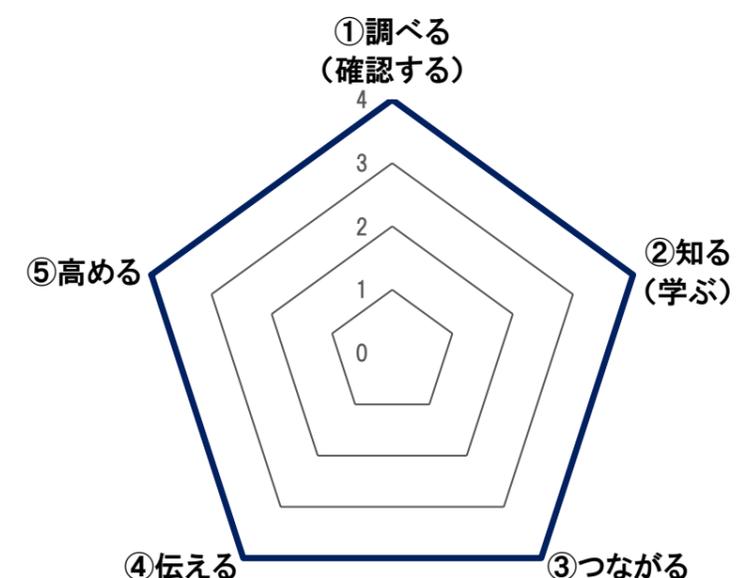
校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	校区のきずな推進委員会等での意見交換を通して地域の状況を確認することができた。 また、下校指導によって校区の状況を確認した。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	校区きずな推進委員会の中で、防災や様々な観点から校区内での福祉活動や住民の様子(独居高齢者や障がいなど)を推進委員間で共有し学び合うことが出来た。	4	各種取り組みにおいて校区のニーズをテーマとして設定し、学ぶ機会を設ける。
③つながる	校区のきずな活動を推進するにあたり、引き続き学校関係者、福祉施設職員等幅広い関係者とのつながりを維持することができた。また、長年実施している下校指導・見守りを通して小中学生と日頃からの繋がりが出来ている。	4	これまでの繋がりを維持しつつ、様々な行事や活動を通して新たな繋がりもつくっていききたい。
④伝える	各種活動において、きずなの必要性を伝えることが出来た。	3	きずなの概要だけではなく、本質を対外的にどう発信するか検討し実施する。
⑤高める	校区きずな推進委員会や各種会議で、校区内外の取り組みについて共有することで、校区の意識を高めることに寄与している。	4	継続して実施する。



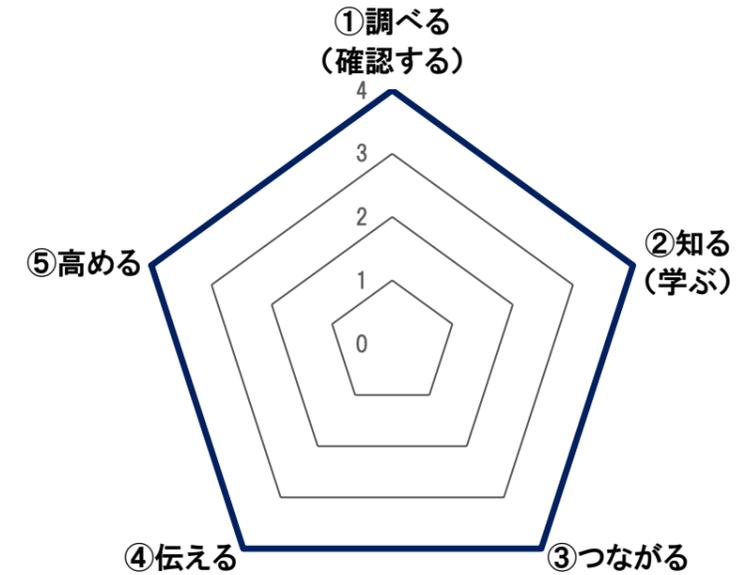
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	きずな安心キットの配付等をきっかけに地域の状況を確認することができている。 また、コロナ禍でも感染症対策をしながら見守りを行っている。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	各種会議等において活動の進捗状況等の共有を行い、実情を学ぶことができた。 また、活動を行う際の感染症対策を学ぶことで、徐々に活動を再開し始めてきている。	4	見守り活動などを安心して継続的に実施できるよう日々感染対策方法を学びつつ、活動の工夫をしながら実施していきたい。
③つながる	活動の推進により、地域内の住民同士や専門職とのつながりを持つことができた。 サロンになかなか参加することが出来ない人に対しても小地域活動を通して繋がりが続けられている。	4	まごころレターなどを通して、これまで以上に繋がりが続けられるよう活動していく。
④伝える	活動において、日頃からのつながりを持つことの大切さなどを伝えながら取り組むことができています。	4	継続して実施する。
⑤高める	地域の自助・互助力を高めることにつながっている。	4	継続して実施する。



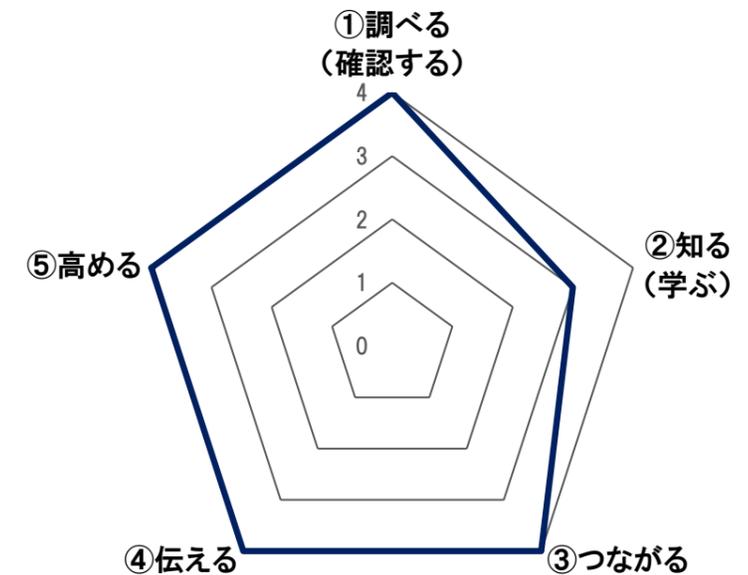
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会の推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	実施すること自体で安否確認や地域の状況を確認する機会となっている。コロナ禍により、サロンを開催できない地域でも定期的に参加者との連絡などを取りながら近況の共有など行っている。	4	コロナ禍でサロンや会食会を十分に実施できるかは不透明だが、その中でも違う形でできる事も考えながら安全に活動していきたい。
②知る (学ぶ)	サロンや会食会において、地域の情報発信を行っている。コロナ禍の影響により、一時はサロンや会食会の実施ができなかったが、地域ごとで感染症対策について学び、コロナ禍でもできる事について考える機会となっている。	4	サロンのような住民同士が繋がりを持てる活動を安心して実施していけるように感染予防や対策方法なども継続して学びながらできることについて考えていきたい。
③つながる	参加者や役員、専門職等がつながる機会となっている。	4	サロンに参加されていた方々との繋がりを絶やさないのであることを考えながら活動していきたい。
④伝える	きずなのPR等を行い、伝える事ができている。	4	継続して実施する。
⑤高める	都度参加者や関わる人たちの意見を聞きながら、より良いものとなるように工夫を凝らしている。コロナ禍でもモチベーションを保ちつつ、これからの活動について前向きに考えることが出来ている。	4	今後も無理なく地域の状況に合わせて検討し、実施していきたい。



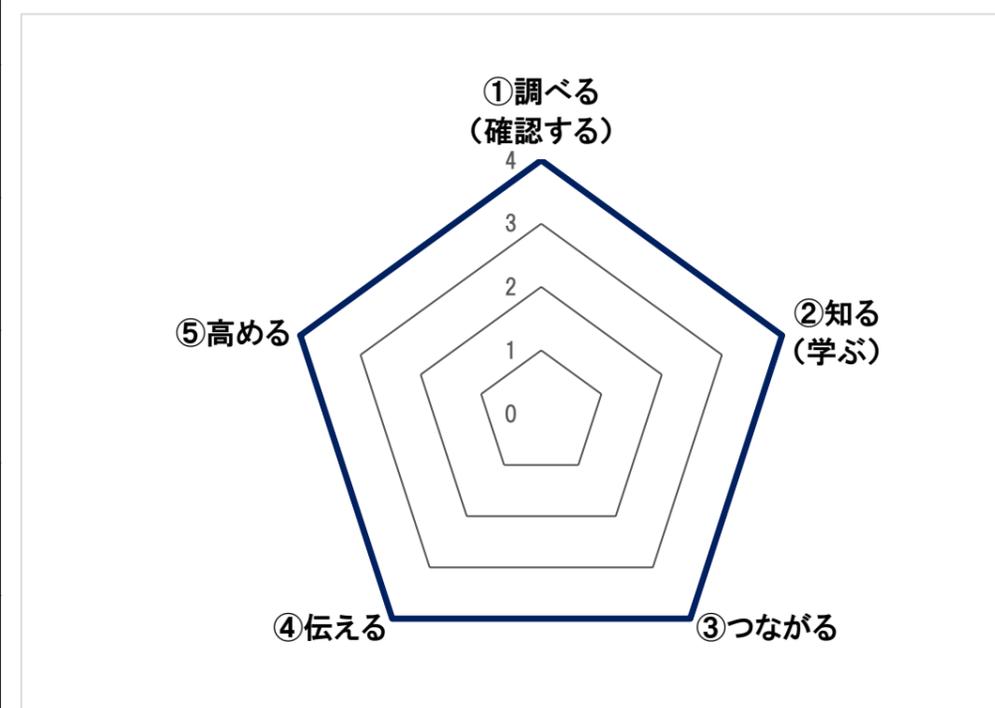
防災活動(普及啓発、要支援者への避難訓練参加促進と避難ルートの周知等)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	訓練の実施により、避難ルートや状況等を確認することが出来ている。	4	地域によっては、避難ルートや避難場所の見直しが必要な場所もあるため、住民や関係機関など見直し・検討していきたい。
②知る (学ぶ)	訓練の実施は、地域住民にとっても良い学びの機会になっている。日頃の見守り活動や住民同士の関わりの中で、要支援者などとの関わりを普段から取るようにしている。	3	普段避難訓練に参加している人を始め、要支援者の方などからの意見を踏まえてお互いが学び合いながら避難する際に必要なことを共有していきたい。
③つながる	一昨年の北海道胆振東部地震時においては、日頃のつながりを活かした迅速な対応を取ることができていたので、継続して住民同士のつながりを意識している。	4	これまでの繋がりを絶やさないので、日頃から行っている様々な地域での活動などを通して、これからも繋がっていききたい。
④伝える	日頃からの備えの大切さを普段のつながりの中で伝えている。	4	継続して実施する。
⑤高める	繰り返し訓練を行ったことで、迅速な避難ができるようになってきている。	4	継続して実施する。



高齢者支援(軽微な生活支援の提供体制の構築)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	ゴミ出し等比較的軽微な支援は、ご近所付き合いの範疇で気にかけてあいながら実施されている。	4	感染対策をしつつ無理のない範疇で気かけながら困り事など無いか状況を確認していきたい。
②知る (学ぶ)	日頃の活動から校区内の課題を把握・共有することができた。	4	継続して実施する。
③つながる	鍵預かりサービス事業の実施により、福祉施設とつながることができている。 また、老人クラブやサークルに参加している方との繋がりも大切にしている。	4	今後も様々なつながりの中で日頃の生活の困り事が無いかアンテナを張っていきたい。
④伝える	日頃の活動を通じて、軽微な支援の必要性などについて伝えている。	4	継続して実施する。
⑤高める	鍵預かりサービス事業の実施により、校区の安心感を高めている。	4	継続して実施する。



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	南 行雄
サブリーダー	伊藤 秀男
サブリーダー	松川 陽子
きずな推進委員	高橋 正子
きずな推進委員	西村 美代子

きずな推進委員	境 幸子
きずな推進委員	星 康彦
きずな推進委員	植田 正子
きずな推進委員	関 國男
きずな推進委員	中島 康晴

校区きずな推進委員	伊藤 修二
校区きずな推進委員	西村 孝夫

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
6月7日	第1回若草小学校区きずな推進委員会	8名	1)昨年度の校区きずな計画評価について 2)今年度の校区きずな計画の実施内容について
1月23日	第2回若草小学校区きずな推進委員会	7名	1)若草小学校区住民座談会の内容について 2)校区内における各種事業について
3月13日	若草小学校区住民座談会	—	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

若草町内会	若草第二町内会
美園南町内会	旭ヶ丘町内会
美園町会	桜ヶ丘町会

実施率 85.7% (6 / 7)

3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあいいきいきサロン、ふれあい会食会)

ふれあいいきいきサロン

若草町いきいきサロン	なかよしサロン
いちにのさん	美園町会いきいきサロン
みんなでいきいき	ちょこっと茶屋の会

ふれあい会食会

若草町内会	若草第二町内会
美園南町内会	旭ヶ丘町内会
美園町会	美不二町会

実施率 85.7% (6 / 7)